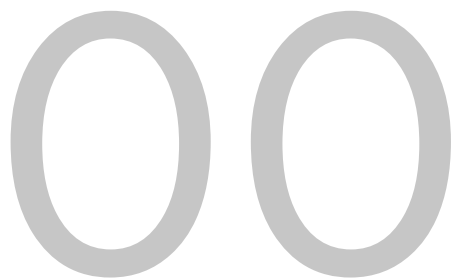




令和2年度鯖江商工会議所青年部 政策提言

「 ”さばえのらしさ”

でいっぱいの屋内施設の提案」



「はじめに」

2020年に第1回目の政策提言を行い、「にぎわい中心地域」と「仕事と子育ての両立」の2つの軸となる課題を提案し、鯖江市と共創パートナーを目指し活動してまいりました。

2年目となる本年の政策提言では、昨年のテーマの題材をもとに新たに委員会を発足しディスカッションを重ねてまいりました。

本年では鯖江Y E G内でのディスカッションを経て「仕事と子育ての両立」というテーマにスポットを当て、青年経済人として鯖江がより働きやすく、住み心地の良い街になること。そして子育て世代がストレスなく子育てができる街を目指してテーマについてのアイデアや意見を交わしてきました。今回はそのアイデアや意見をまとめたものを政策提言として次第に沿ってご説明させていただきます。

鯖江商工会議所青年部 未来の風R2委員会
委員長 市野 貴之

「目次」

01 「課題」

02 「目的」

03 「企画」

04 「施設をつくるために」

05 「G C F に支援した人たちの
メリットをつくる」

06 「取り組みの効果」

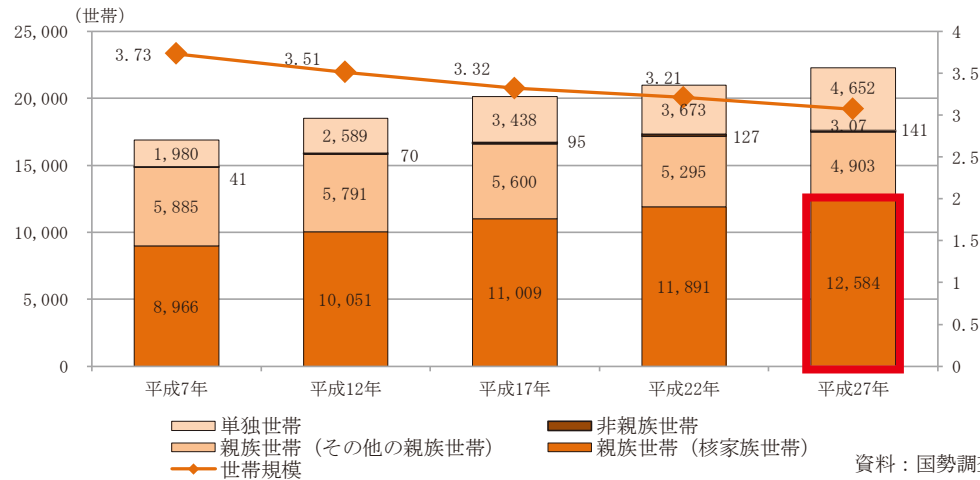
01

「課題」

今鯖江市に暮らす子育て世代の家族は、核家族が人口の56%と半分を占め、母親が、親の育児の手助けを受けづらい状況にあり、育児や家事の負担が増加する傾向にあります。また、一人親世帯も増加傾向にあり、平成27年の調査では世帯数4.6%と平成17年の調査に比べ倍の一人親世帯が子育てと仕事を両立している現状があります。

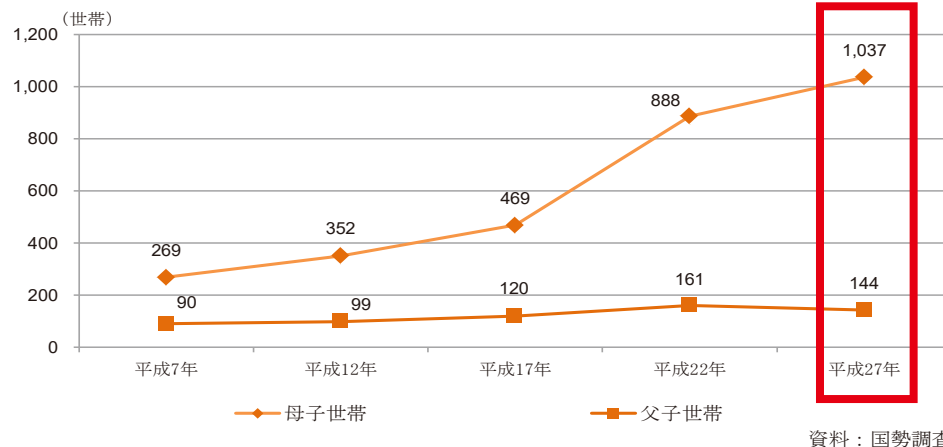
世帯別世帯数の推移

本市の世帯数は、核家族化の進行や単独世帯の増加に伴い年々増加する傾向にあり、今後も核家族世帯を中心に増加し、1世帯当たりの人員は減少していくことが予想されます。



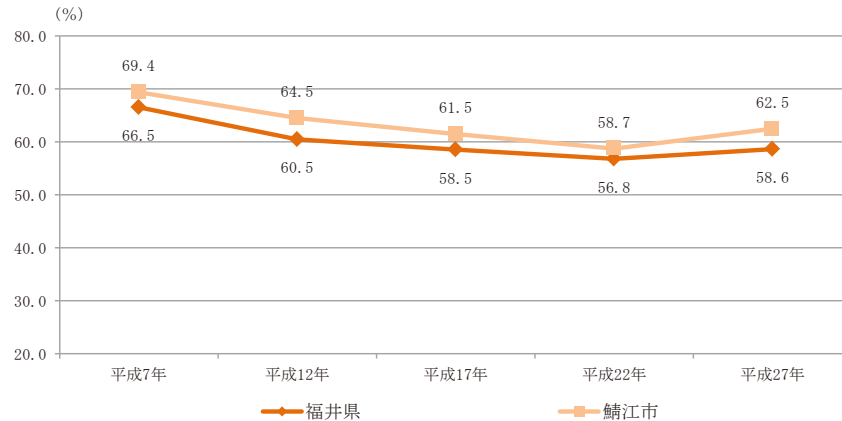
ひとり親世帯 (母親もしくは父親と20歳未満の子どもからなる世帯) の推移

本市の20歳未満の子どもを持つひとり親世帯は、母子および父子世帯ともに年々増加する傾向にあります。特に、母子世帯は、今後も増加していくことが予想されます。

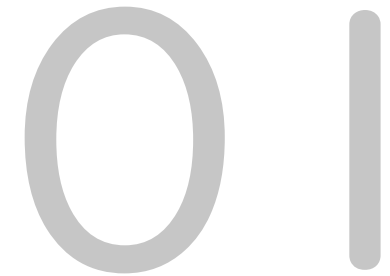


共稼ぎ率の推移

本市の共稼ぎ率は県をやや上回っていますが、年によって増減はありますがほぼ横ばいの傾向にあります。



資料：国勢調査



「課題」

福井県は夫婦共に働いている共働き世帯の割合が全国一高く 62.5%と半分以上を占めています。また、休日を取りづらいと言われている経営者の人口当たりの割合も全国一高く、夫婦が家事や育児にかけることのできる時間は少ない状況にあります。

このような状況の中、土日祝日に親と一緒に子供たちがのびのびと過ごせる状況や環境は、市民から求められる声であり整備していく必要があると考えます。

社長輩出率 ～福井県は38年連続全国トップ～

都道府県別の社長輩出率（出身都道府県別の社長数÷各都道府県人口×100）をみると、福井県は1.37%で全国トップであった。1982年から2019年まで38年連続トップ。国内生産の9割以上を担う眼鏡フレーム関連業者や、繊維関連企業など独立資本の企業が多いためとみられる。

出身都道府県別 社長輩出率

順位	都道府県	輩出率(%)	順位	都道府県	輩出率(%)	順位	都道府県	輩出率(%)	順位	都道府県	輩出率(%)
1	福井県	1.37	13	福島県	1.00	25	山口県	0.92	37	茨城県	0.70
2	山梨県	1.23	14	宮崎県	1.00	26	長崎県	0.92	38	沖縄県	0.70
3	富山県	1.15	15	北海道	0.99	27	熊本県	0.88	39	東京都	0.63
4	山形県	1.14	16	青森県	0.99	28	岩手県	0.85	40	愛知県	0.62
5	徳島県	1.13	17	群馬県	0.99	29	栃木県	0.85	41	大阪府	0.61
6	新潟県	1.10	18	佐賀県	0.99	30	和歌山県	0.85	42	兵庫県	0.59
7	香川県	1.09	19	鹿児島県	0.99	31	岐阜県	0.83	43	滋賀県	0.57
8	鳥取県	1.07	20	秋田県	0.97	32	三重県	0.81	44	奈良県	0.54
9	愛媛県	1.07	21	高知県	0.95	33	静岡県	0.80	45	千葉県	0.42
10	石川県	1.03	22	鳥取県	0.92	34	京都府	0.74	46	神奈川県	0.40
11	大分県	1.03	23	岡山県	0.92	35	宮城県	0.71	47	埼玉県	0.39
12	長野県	1.01	24	広島県	0.92	36	福岡県	0.71	-	全国	0.73

※人口は「人口統計」(総務省統計局、2018年10月1日現在)より

※輩出率は少数第3位を四捨五入

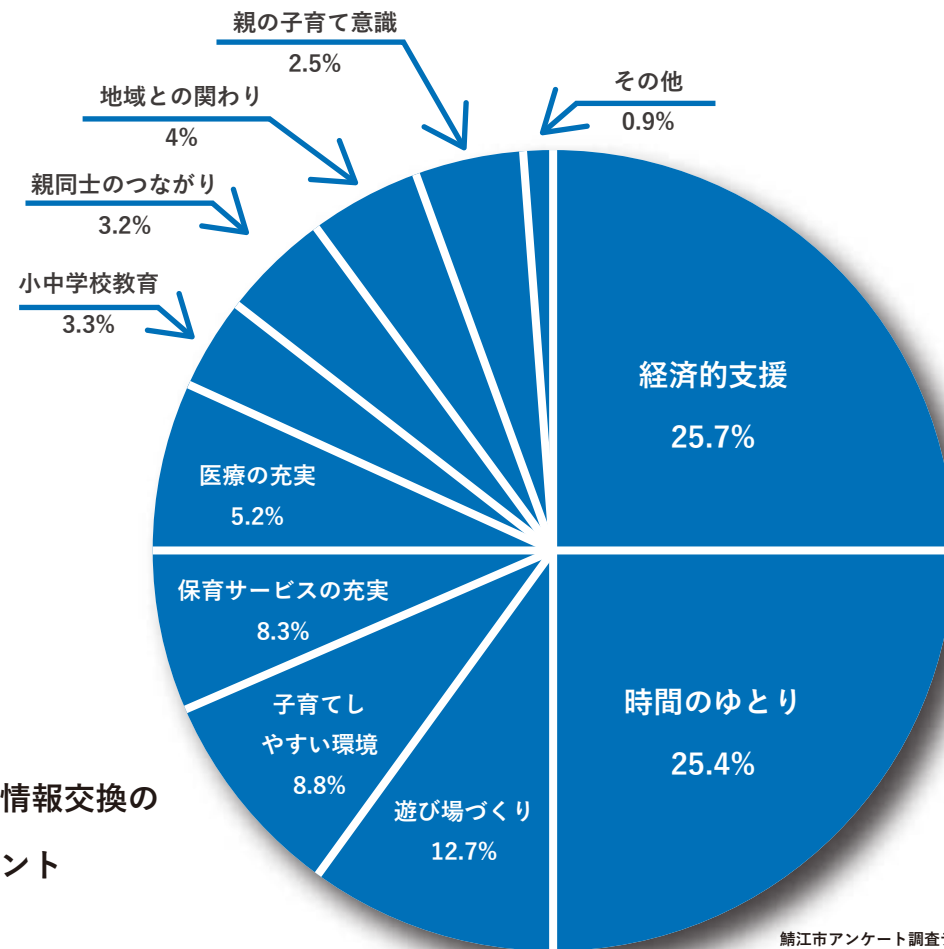
02

「目的」

課題で上がった点を緩和させる対策として、実際に市民からは下記のような調査結果が出ています。

- ・遊び場づくり（親同士が集える場所の整備） 12.7%
- ・子育てしやすい居住空間 8.8%
（公園や道路の整備、公共施設のバリアフリーや授乳施設整備）
- ・保育サービスの充実 8.3%
- ・親同士が繋がれるきっかけづくり 3.2%

子育てや情報交換の
重要ポイント



鯖江市アンケート調査データ参照

上記を見ても子供たちが楽しくのびのび過ごせる場所や母親が育児の負担から軽減される場所の整備は多く意見が寄せられています。また、北陸地方にある福井県は雨期が多く年間178日雨が降ります。晴れた日には西山公園があるが、雨が降った日に子供たちが遊べる場所が市内にはなく市外や県外へ市民が流出しているのが現状です。

そこで、子どもたちが天気に左右されず快適に過ごせ、また母親はストレスなく子供たちを遊ばせられることは鯖江市に必要なことだと考えます。ストレスなく育児や家事のできる環境があれば、鯖江市民が快適に過ごすだけでなく、県内外からの交流人口の増加や過ごしやすさから定住につながり人口減少対策にも大きな影響を与えます。

03

「企画」

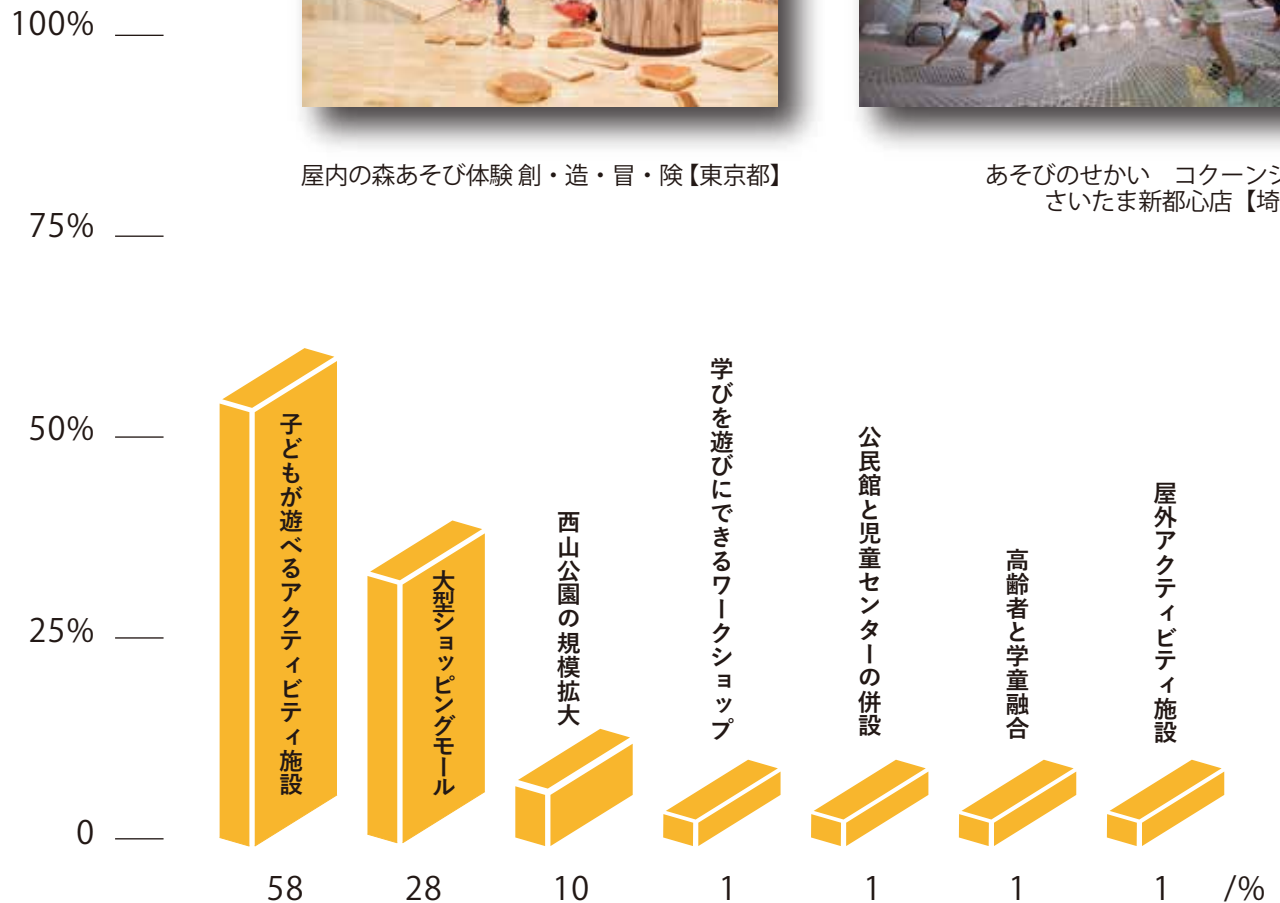
課題や目的を踏まえ、鯖江市民には子供たちが楽しく快適に遊べて、さらに母親同士の交流や育児への負担軽減のコンテンツを盛り込んだ屋内の施設を作ることによって鯖江市がより快適に育児や家事のできる街になると考えます。この施設の需要は、アンケートの調査（右図）においても多く声が寄せられており、市内で求めている子育て世代が多くいることが分かりました。



屋内の森あそび体験 創・造・冒・険【東京都】



あそびのせかい コクーンシティ さいたま新都心店【埼玉県】

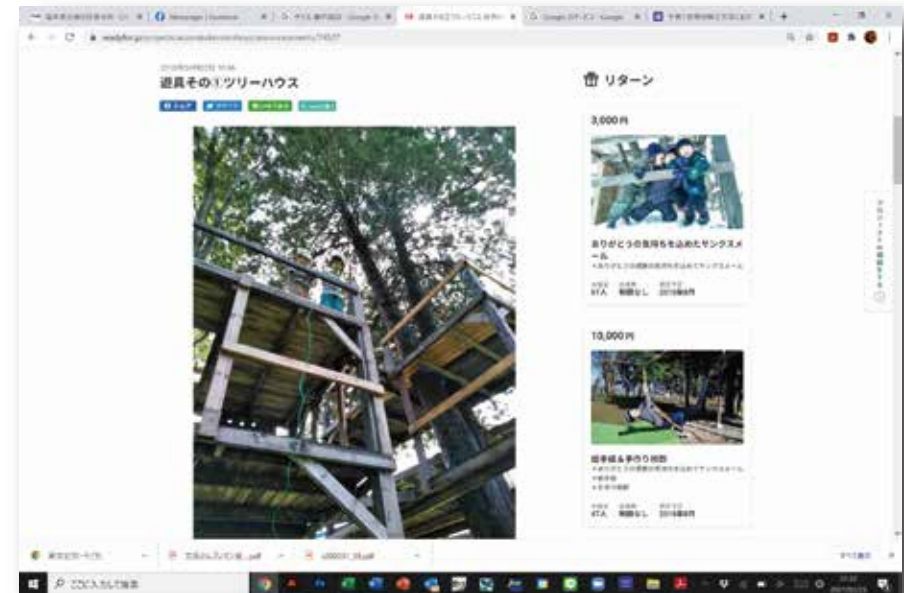
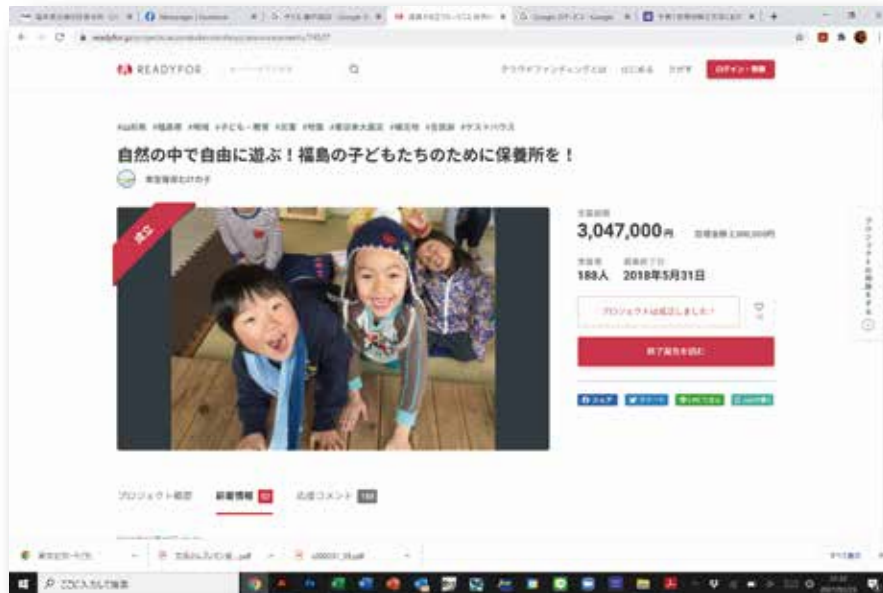


※鯖江YEG会員から身近な子育て世代へのアンケート調査結果

04

「施設をつくるために」

施設をつくるためにはコストが必要になり、そのために予算を組み立てるための議論や協議が重ねられるかと思えます。そのコストをガバメントクラウドファンディング（以下、G C Fと表記）で調達することで民間からの支援で施設を作る計画を推進します。



施設を利用する世帯からの支援だけでなく、利用者世代の従業員を雇用する地元企業や県外の利用者などからの支援を視野に返礼品や取り組みに力を注ぐことで関わるメリットを創出します。またG C Fを活用することで、施設を利用したい人の需要の調査や施設の県内外への広報が可能になります。

05

「GCFに支援した人たちのメリットをつくる」

施設を利用する人や企業が支援したくなるコンテンツや返礼品を企画します。

①「鯖江版 キッサニア」の提案

福井の地場産業の眼鏡、漆器、刃物、和紙、繊維、陶芸などの職人の体験を子供向けに転換した職業の体験ができる施設を作り、鯖江版キッサニアとして運営。

福井で暮らす子供たちや県外の子供たちなど、これからの未来を担う世代に地場産業に触れるきっかけを作りつつ、純粋にアクティビティを楽しめる要素として子供たちが夢中になる体験を準備する。その体験に大人も夢中になったらベストです。



05

「GCFに支援した人たちのメリットをつくる」

施設を利用する人や企業が支援したくなるコンテンツや返礼品を企画します。

②「鯖江らしい返礼品」の提案

地場の技術を活用した地元ならではの返礼品を企画・開発したり、地元企業のアイテムを返礼品に採用したりと産業の街らしい返礼品を支援者に提供する。

- 地場の繊維技術を使った、通学やマタニティーバッグとしても使えるカバン
- 親子漆器
- 親子陶器
- 親子「おそろコーデ」鯖江眼鏡



06

「取り組みの効果」

既に市外のエリアにはこのような施設はあります。ですが、鯖江市内の身近な場所にあるだけでわずかでも移動時間を短縮でき、家事の効率を上げることができたり、幼稚園・保育園の帰りに少し子供たちを遊ばせる時間につながると考えます。

また、施設を作るのであれば地場産業を生かしたアクティビティーをすることで子供のころから職人としての体験をし、地場産業を肌で感じるきっかけを作れるとともに、子供への分かりやすい説明が付き添いで来ている親世代へ共有され、鯖江の地場産業が知られるきっかけを作ることができると考えます。これは、ターゲットを県内に絞らず、県外へも周知すれば鯖江の魅力を更に知ってもらえるチャンスにもなります。